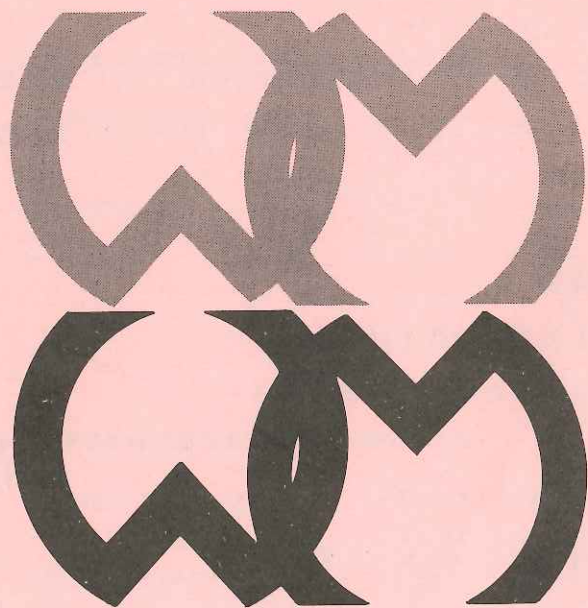


あらゆる分野への男女の共同参加

—平等・発展・平和をめざして—

第8回日本婦人問題会議



と き 昭和58年5月27日(金)

ところ 日経ホール(東京)

主催 労働省

後援 (財)日本国際連合協会 日本放送協会 (社)日本新聞協会
(社)日本民間放送連盟 (財)婦人少年協会

婦人の地位の底上げをめざして — 婦人のための月曜電話から —

広島県の婦人の地位向上と社会参加をすすめる会

1. 「広島県の婦人の地位向上と社会参加をすすめる会(「すすめる会」と略)」について

国連婦人の10年後半期を迎えて広島県の各種婦人団体の連携を求める声が高まり、昭和56年4月20日、45団体が参加して「すすめる会」が結成された。これは国際婦人年とそれに引き続く国連婦人の10年の目標である平等・発展・平和の達成をめざして地域婦人の抱えている諸問題を研究討議し、意見を取りまとめて社会の理解と協力を求めていくことを目的としている。

イ 活動内容

運営委員会、全員会を定例的に開くと共に、次のような研究部会に分かれ、それぞれ年間テーマをもって研究を続けている。

- 第一(教育・家庭)部会 — 中学・高校における家庭科教育
- 第二(労働・職業)部会 — 保育、雇用における男女平等、パートタイマー
- 第三(保健・福祉)部会 — 婦人の健康
- 第四(社会参加)部会 — 婦人教育施設等の充実と社会参加を阻む諸問題

これら年間の事業成果をまとめて会誌を発行し、また県知事に陳情書を提出して婦人対策の充実強化を要望している。

ロ 参加団体の活動

「すすめる会」の結成は、参加団体を活力化し、参加団体が行った活動としては「新聞集成広島女性史」の発刊(広島女性史研究会)、「仕事と家庭の両立」アンケート調査(広島女子薬剤師会)、「共働き教師の意識調査」(広島大学婦人協会)などを実施している。なか

でも全国的に珍しいのは広島女医の会の「レディース・テレホン・サービス」(以下LTSと略す)である。

LTSはプロフェッショナルな医師の技術ボランティアであり、女性の悩みの多くを占める性と医療の相談相手として効果をあげている。

2. 婦人のための月曜電話について

当会はLTSの活動に触発され、当会の趣旨を具体化した事業として、婦人の身上相談を電話で行うことにした。婦人の地位向上は頂点を高くすることも必要であるが、現実の女性の個々の幸福実現に結びつくものでなくてはならないからである。この活動は57年6月より開始され、毎週月曜12時より15時まで、主任相談員1名、相談員2名により相談を受け付けている。

イ 相談内容と背景

月曜電話開設から年末までの7カ月間で受け付けた件数は254件。相談時間を90時間とすると1時間平均2.8件である。

相談内容をみると、その半数は家庭内のトラブルである。広島市は都市サラリーマン家庭の暮らす新興団地と近郊農村地帯を含み、その周辺に半農半工業都市をもっている。広島県は進学率において全国のトップレベルにあり、一方においては農家主婦の割合も高率である。したがって、家庭婦人の環境も多岐にわたっている。

団地核家族の主婦は転勤族の妻も多く、地縁、血縁に薄く孤独である。一方、農村型大家族では依然として嫁の座の問題があり因習に悩んでいる。いずれの場合にも、女性が家庭の中に相談相手をもたず、地域の中にも女の連帯を困難にする要因があるため、電話相談が繁盛するものと思われる。それだけに内容は、たわいのないものから深刻なものまであり、対応の柔軟性が求められている。

ロ 課題

私たちは電話相談によって婦人を取り巻く生々しい現実を把握しつつある。それによって会員たちは多くの学習をした。悩みの多くは、とかく孤立した存在となりがちな主婦にとって唯一の相談相手であるべき夫が敵対者となる場合が少なくないことを示唆している。伝統的役割分業観の見直しに努力していきたい。

子育てで知ったおやじ群像

本 田 勝 也 (愛知)

1. はじめに

私の住んでいる上飯田の街は、名古屋市北区の東に位置し、工場跡地に高層住宅が建ち並ぶ人口急増地域です。この街で、共に子育て運動に励んでいる「おやじ」達を紹介するのが私の話の目的です。私がこの「おやじ」達に初めて会ったのは、10年前長男が入所した共同保育所でした。その共同保育所では、運営への父親参加が義務付けられており、会議や廃品回収に参加しているうちに、「おやじ」達のしたたかな生き方に感銘を受け、職場とは違った人間関係の中で自分が鍛えられ、育てられる実感がある種の喜びに転じ、積極的に子育て運動に係わることになりました。

2. 学童保育所の活動

子供が長ずるにつれて、公立保育園から学童保育所へと活動の場が広がっていきました。婦人の働く権利を保障し、留守家庭児童の放課後の生活と安全を守る学童保育所は、国の制度がないため自治体によって様々な形態の運営が行われています。名古屋市の場合は、大部分運営委員会方式と言って、事実上父母の共同運営になっています。市からの助成金がありますが、年間100万円近い赤字を物資販売やバザーで埋めながらの厳しい運営を強いられています。このような父母の苦労があるにもかかわらず、上飯田地域の学童保育所は、7年前1カ所15名から出発して、この4月には5カ所170名に発展しました。共働き家庭が増加したことも原因にありますが、子供の発達にとって異年齢集団の良さが認められたものと考えています。

厳しい運営を乗り越えるためには、父母の固い信頼関係が不可欠です。ここでも「おやじ」達は素晴らしい活躍をしています。公務員・教師・自営業・技師等々職種は様々で、年齢も学歴も違う人達が、個性

豊かにそれぞれの能力を発揮して活動に参加しています。会議で遅くなる「かあちゃん」を怒鳴っていたおやじも飛び込んできました。発想もユニークで、寒い冬に河原で子供と一緒に野宿をやったり、空いている小学校を借りて一週間の林間学校、もちつき大会など、「おやじ」達の活躍なくしては実現しなかったでしょう。

仕事で疲れているにもかかわらず「おやじ」が出しゃばってくるのは、子育ての共同責任を担うためばかりでなく、「おやじ」集団の中で人間性を回復できるからでしょう。私達の活動にはアルコールは欠かせません。飲んで騒ぐだけでなく、人生について、仕事について、夫婦・子育て、政治と真剣な話もし、互いに教えられ励まされることが大きいのです。

3. 上飯田恵那の家

ユニークな活動の最たるものが、山の家づくりでした。飲みながらの雑談の中からひょっこり浮んだこの計画は、「おやじ」達の大胆不敵な実行力でトントンと進行していきました。見返りなしの出資金を600万円集め、仲間の1人である大工さんを棟梁にして素人集団の家づくりが始まりました。古電柱を壁材に積み上げ、井戸を掘り、梁を上げ、1年と3カ月、老若男女延べ200人余の人が参加しました。手にまめをつくり、腰を痛めながら、「つくる」ことに飢えていた「おやじ」達は、休日には数家族連れ立って現地に通いました。昨年8月に完成し、盛大な落成式を楽しくにぎやかにやりました。

4. ま と め

子育ての中で知り合った「おやじ」達は、苦労を楽しみに転化させ、何ごとも肩つりあげずに楽天的にとらえ、なし遂げてしまったたかさを持っています。核家族化が進み、職場でも仕事が厳しく、疎外感が強まっている現在、子供を中心にすえた「おやじ」の連帯は、ますます重要になっています。

政策決定の場に婦人の参加を進める

長野婦人問題研究会

1. 長野婦人問題研究会の概要

本研究会の設立は、昭和53年7月22日である。結成の動機は、昭和50年7月「国際婦人年長野県大会」が1,200余名の婦人の参加を得て開催されたことにある。同じ目標に向かってつながりあった婦人たちの、かつてない盛り上がり、個々へのゆさぶりになって、組織化に結びついた。結成への呼びかけは、婦人問題に関心を示していた有志によって行われた。

個人参加で自主的運営のこの組織に集った会員は、男性5人を含め111人。女性議員、教師、ジャーナリスト、女性管理職、法律家、研究者、調停委員、教育委員、審議会委員、会社役員、団体の代表等で、本研究会は学習活動と社会的環境の整備に活動の重点をおき、会員が各々の分野で十分に能力を発揮し得る基盤としての機能を目指した。

事業は隔月例会形式で年6回、他に地区会を設定し、地域ごとの調査研究活動を実施し、環境整備のための提言を行ってきた。

地区会で実施した調査研究は、介護者の福祉を考える「高齢者介護に関する問題」、男女間格差への対応として「労働力の適正評価」「行政面への婦人登用の現状と課題」である。

2. 婦人登用調査研究活動について

婦人の登用状況の調査活動は、主として県南部市町村の管理職、審議会・委員会への女性参加状況調査を行った。そしてこの資料を基にして市町村との話し合いを持った。課題は(1)選管・審議会・委員会に女性委員複数登用、(2)婦人問題総合窓口の早期実現である。

特に、婦人の代表は「地域婦人会」だけとしている行政側の固定化した意識をなくし、広く婦人層からの適材登用を推進させることを目的に、人材の発掘を行い、その名簿を市町村に提出して実現を図った。

以来、切替時に女性委員は微増している。

本年は、現在ある審議会・委員会が適正に機能しているかどうかの見直しの調査研究を予定している。

3. 行政・議会への働きかけ

総会の記念行事として、婦人問題への理解を深め、その実現を可能にするため、行政・議会の協力を得る活動として「語る会」を対話集会形式で開催してきた。

現在までに「知事と語る」「県議会議員と語る」「市町村婦人議員と語る」「首長と語る」を実施した。

「知事と語る」の成果は、その時の要望が知事選の公約になり、当選後、公約のほとんどが果たされている。「県議会議員と語る」では、2週間後に県議団の自主的な発想で「長野県婦人問題対策議員連盟」が、超党派で設立され、婦人問題に対する県議団の総合窓口としての性格をもつものとなった。また「市町村婦人議員と語る」がきっかけとなって、57年1月、婦人議員のいなかった地区に新たに婦人議員を誕生させた。「首長と語る」は、市長会長・町村長会長の代表首長を通して、県下全域に婦人問題理解への浸透を図るねらいで実施したが、申し入れの一つである政策決定の場への婦人の登用については、婦人自身のあり方に対する指摘も含めて、答えが返りつつある。

4. おわりに

57年度の活動目標を「婦人の進出分野を広げよう」とし、政策決定の場に、職場に、地域に、家庭に、このことの充実を願って討論、講演、学習のほか各関係機関への申し入れも行ってきた。しかし、婦人自身がそれに応え得る力を持たなかったら、その場だけ形は整えられても、真の男女共同参加社会実現の力にはなっていない。

これらの反省と併せて、今後の活動を更に考えていきたいと思っている。

あらゆる分野への男女の共同参加

—— 平等・発展・平和をめざして ——

- ◇ 「国連婦人の10年」（1976年～1985年）は残すところ2年余りとなり、「婦人に関する施策の推進のための『国内行動計画』後期重点目標」に沿って様々な活動が展開されています。
- ◇ 「平等・発展・平和」という「国連婦人の10年」の目標達成のためには、あらゆる分野へ、婦人が男性と等しく参加することが必要です。
- ◇ 男は仕事、女は家庭という固定的な役割分担意識が、それぞれの活動の範囲を狭めていないでしょうか。
- ◇ 婦人は、行政や政治の分野、地域の活動、職場や労働組合等、さまざまな分野に参加する意欲をもちましょう。
政策・方針決定の場で発言できるよう、知識を深め、社会経験を積んでいきましょう。
- ◇ 男性は、いこいの場として、次代の育成の場としての家庭に理解を深めましょう。
家族とのふれあい、子供の教育、家事、近所づきあいなどにもっと目を向けましょう。

